

## シベリアの抑留生活を振返って

愛媛県 片上節 男

昭和十九（一九四四）年二月二十五日満州ハルピン第二七七部隊に入隊しました。幸運にも今治

中学校二年生の時、同級の藤田礼二君は級長をしていましたが、陸軍幼年学校、陸軍士官学校を優等で卒業し、私の入隊部隊の連隊旗手をしていました。びんたの多い軍隊でしたが、私は一度十人ばかりと一緒にびんたをもらったが、連隊旗手と同級という事からその後は一度もびんたを受けず、従って私は小隊長になったが軍隊では手をかけませんでした。その後も一度も手はかけませんでした。

私の部隊は沖縄へ行く途中不幸にも撃沈し、藤田礼二連隊旗手も戦死しました。

私は幹部候補生の講習を受けていたので、講習後は原隊には帰れず転属し、ソ満国境瓊瑣に転属

し、部隊の兵器委員長になりました。

間もなく不可侵条約を結んでいたソ連との戦争が始まり、直ちに武器、弾薬をトラックにて陣地に輸送し、完了した事を濱田閣下に告げると、朝水陣地へ一カ小队連れて応援との命令を受け、夜間歩いて行きました。

広島県出身の渡邊小隊長は、ソ連との開戦間もなく十数人が包囲され戦死しました。死体収容に担架一つで行き、小隊長一人しか収容できませんでした。埋葬しましたが、他の戦死者は戦争中の事として不可能でした。

終戦の連絡を受け、ソ連軍の指示に従って武装解除され、数日歩行し、夜は地面に寝泊りし、黒龍江を船で渡って、ソ連ライチハ第一九収容所で天幕をし二段構えで、夜は石炭を焚き一年間を過ごしました。

作業は毎日指示に従って行い、宿舎は私達の手作業で半地下の二階式の収容所を作りました。

作業の中では煉瓦工場、道路作業、農作業等が

多く、他に馴れない作業も多く、しかもノルマによつて評価され、食事も変つていった事もありました。

小隊長をしていた私は、抑留されては作業班長となり、早く会話ができないといけないので苦勞しました。

抑留の生活は、衣類は今自分の持つているもの、食事は黒パン、ぞうすい等、腹六分低度、今考えてみても、よく生命が保てたと痛感します。食事や冬の寒さのため、多くの戦友が死亡したと聞きました。六十万余ソ連へ行き、六万人は死亡した事は帰国後耳にしました。日本の様子は全く分からず、日本へ帰国できるとは考えられませんでした。

今振り返り考えてみて、二年十カ月のソ連シベリアでの抑留生活、冬は零下三〇度以下、抑留の身で衣類、食事、寝るところ、作業、何の楽しみもなく、全くあわれな生活でした。多分この地で死ぬであろう、日本へ帰国できるとは夢にも考え

られなかったのに、二年十カ月後復員の知らせを聞き、嬉しさでいっぱいとなりました。

満州瓊瑋挺進大隊の副官であつた愛知県出身の牛尾公一さん（名古屋市昭和区）が、九百五十四人の挺進大隊中戦死者とシベリア抑留中に死亡百四十五人と、元満州瓊瑋歩兵佐々木隊五十人中十四人死亡の名簿を靴の内足下へ入れて持ち帰り、戦友の名簿三十六ページ印刷し、第一回戦友会を亀田博（三重県松坂市）大隊長の出身地の近く愛知県二見ヶ浦で開催し、貴重な戦友の名簿を頂きました。戦友会は数年ごとに開催されましたが、年を追つて老齡化し、平成十四年第十九回で終了となりました。

復員後、私は元の教員に復職し定年まで勤務しました。六十歳で、硬膜血しゆの手術、六十九歳でキヤタツから落ち、救急車で運ばれ片木脳外科でCT検査、運よく入院せず点滴二十日間、回復。その後、通院一カ月に一度服薬、検査診断を受けています。八十一歳で前立腺ガンになりました。

質がおとなしく、また軽いので二カ月に一度四国  
ガンセンターで検査を受けています。幸いにも珊  
瑚礁によるMPGの水に出合い経過が順調で、ガ  
ンも押さえられるとの説明を聞きほつとしていま  
す。

十年前からEMXによる農薬を使用しながら野  
菜作りをして、現在八十三歳、今では健康が第一  
で、毎日を楽ししく、長寿したいと念願しています。

過去を振り返り、戦争は人間の殺し合いで、こ  
れほど良くない事はないと思います。戦争中を体  
験しない若い人達には戦争のいたましさは分から  
ないと思います。戦争を体験した私達老人は、若  
い人達、小学生や子供にも、この事をよく伝え、  
戦争を起こさない楽しく、平和な日本を作るよう  
に伝えなければと強く思います。

### 【執筆者の紹介】

住 所 愛媛県今治市大西町  
生年月日 大正十二年二月四日

学 歴 県立今治中学校

香川師範学校大陸科

職 歴 奉天省本溪湖宮原在満国民学校

愛媛県越智郡菊間中学校

愛媛県越智郡歌仙小学校

愛媛県越智郡菊間小学校

愛媛県小学校体育連盟会長

愛媛県越智郡大西公民館長

愛媛県越智郡大西幼稚園長

### 終戦時

北満の瓊瑤、独立混成第一三五旅団にて奮闘さ  
れたが昭和二十年九月に入ソ、ライチハ收容所に  
強制抑留昭和二十三年六月、無事復員（舞鶴港）。  
引揚後は地元、今治市の小中学校に奉職、教育  
界のために各種の公職について活躍

（愛媛県 山本 繁夫）